

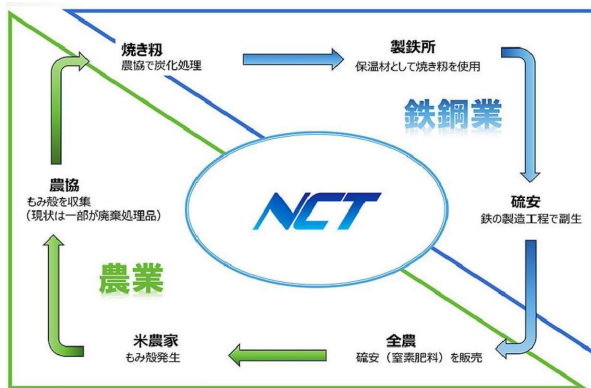
新ケミカル商事

粉殻を製鉄用副資材に利用

新ケミカル商事は鉄鋼業と農業を繋ぐ循環リサイクルの取り組みを推進する。鉄鋼副産物である硫安（窒素肥料）事業で培った知見とネットワークを活用し、新たにバイオマス資源である国内産粉殻の製鉄用副資材としての利用促進に乗り出した。すでに新潟県に粉殻の収集および副資材として利用するための加工体制を構築し、現状余剰となっている粉殻の鉄鋼メーカーでの試験運用を開始した。今後は同取り組みを九州など他地域へも展開していく方針。

現在、国内では年間30万トンの粉殻が産業廃棄物として処理されており、循環型社会の実現に向けてその有

鉄鋼業と農業のサキュラーエコノミー



効活用が課題となっている。一方、鉄鋼業では製鋼プロセスにおいて溶けた鉄の保温材として焼き粉殻室の粉殻燻炭事を使用しているが、その調達は複数の中小代理店や輸入品に依存しており安定供給に課題を抱えている。

新たに開始した取り組みは粉殻の有効活用と粉殻燻炭の安定調達を実現するもので、全農やJA新潟かがやき農協などの協力のもと、同社のプロデュースにより事業化した。米農家から収集した粉殻をJA新潟かがやき農協が保有するバイオマス炭化装置で処理して製鉄所に供給するスキームとなっており、同社において製造・納入計画および受発注の調整を行う。今年夏にはバイオマス炭化装置の増強を完了させたほか、新規拠点での炭化装置の増設を計画している。

同社は旧八幡製鉄所を出自とする専門商社。2025年度までの中期経営ビジョンでは独自の提案力をベースに事業としてSDGsの取り組みを推進する。その一環である今回の取り組みでは、硫安・粉殻による（鉄鋼から農業へ、農業から鉄鋼へ）を実現することでサキュラーエコノミーの構築に貢献していく。